

学 部		小学部	学 年	5年	
教科等名		国語・算数	グループ名	ろばグループ	
ねらい		・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。 ・ものの数に着目し、具体物や図などを用いて、数の数え方や計算の仕方を考え、表現する力を養う。 ・数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度や言葉がもつよさを感じる。 ・図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。			
担当教員		○風間 康宏 滝沢 真心 堀口 明			
予定授業時数		148/255.8			
使用教科書		東京書籍 こくご☆☆☆ 教育出版 さんすう☆☆☆			
月	単元(題材)名	★	主な学習内容	ねらい(評価の観点)	指導の工夫
4 5 6 7	<国語> ○つたわりやすいようにはなしてみよう 「でんわ」 ○わらべうたをたのしもう 「すきな うた」	○	・簡単な用件を聞く、話す。 ・簡単な取り次ぎや伝言 ・伝わりやすい話し方、丁寧な言葉での話し方 ・わらべ歌に親しむ。 ・濁音、半濁音、促音、拗音の読み	・電話を使って簡単なやり取りができる。 ・「～です」「～ます。」を使った丁寧な言葉遣いができる。 ・わらべ歌を通して、濁音、半濁音、促音、拗音の読みに触れる。	・電話を使ったロールプレイを行う。 ・生活の中で目にするものを使用する。 ・ICT機器を活用し、児童が表出・表現しやすい手段を整える。
	<算数> ○10までのこうせい 「かぞえましょう」 「いくつといくつ」 ○たしざん 「あわせていくつ」 「ふえるといくつ」 「しきをつくりましょう」	○	・数詞(2位数程度) ・10までの数の構成 ・2つの数量の合わせた大きさ ・加法の意味理解 ・「+」「=」の理解 ・繰り上がりのない加法計算	・数詞を使って数を数えることができる。 ・10までの数の構成ができる。 ・「+」「=」を使った数の操作ができる。	・操作しやすい具体物を用意する。
9 10 11 12	<国語> ○げきあそびをしよう 「三びきの こぶた」 ○かいものしよう 「かいもの」	○	・脚本を読む、聞く。 ・筋書きの理解 ・劇遊び(セリフや身振りの工夫) ・簡単な指示の聞き取り、伝言 ・メモの使用 ・挨拶、買い物の簡単な受け答え ・買い物の疑似体験	・セリフや身振りで劇遊びができる。 ・挨拶や買い物場面での簡単な受け答えができる。 ・買い物の疑似体験の中で、お金を通した物のやり取りができる。	・簡単なお話を聞いたりロールプレイなどをしたりして気持ちを表す言葉を引き出す。 ・実際の買い物場面をイメージできるような場面設定をしたり教材を工夫したりする。
	<算数> ○ひきざん 「のこりはいくつ」 「しきをつくりましょう」 「けいさんしましょう」 ○くらべてみよう 「ながい、みじかい」 「ながさをくらべましょう」	○	・「のこり」の使用、減少の理解 ・「－」「=」の理解 ・10までの減法計算 ・簡単な指示の聞き取り、伝言 ・買い物の疑似体験 ・「長い」「短い」の理解 ・3量のながさの関係 ・長さの数値化	・「のこり」を数えることができる。 ・「－」「=」を使った数の操作ができる。 ・「長い」「短い」が分かる。	・操作しやすい具体物を用意する。 ・比較をしやすいよう、差異が分かりやすいイラストや具体物を用意する。
1 2 3	<国語> ○ひらがなにしたいしもう 「ひらがなをよもう」 ○にほんのものがたりをよもう「おじいさんとねずみのはなし」 「ペーパサートをつくろう」	○	・長音、拗音、拗長音、促音の理解 ・長音、拗音、拗長音、促音などを含む身近な語句の表現理解 ・昔話の音読、黙読 ・物語のあらすじの理解 ・登場人物の気持ちの理解	・長音、拗音、拗長音、促音などを含む身近な語句の簡単な意味が分かる。 ・昔話文章の一部の音読ができる。 ・物語の簡単なあらすじがわかる。	・役割や文章、読む順番などをカードやモニターなどで示し、イメージがもてるようにする。
	<算数> ○いろいろなかたち 「なかまあつめ」「しかくをつくってみましょう」「さんかくをつくってみましょう」 ○とけい 「学校のせいかつ」 「ながいはり、みじかいはり」「なんじですか」「ごぜん、ごご」	○	・「まる」「さんかく」「しかく」の理解、弁別 ・「しかく」の特徴 ・「ましかく」「ながしかく」の理解 ・「さんかく」の特徴 ・直角の意味 ・学校生活の時刻 ・○時の理解 ・長針と短針	・「まる」「さんかく」「しかく」の弁別ができる。 ・学校生活の一日の流れと時刻を関連させることができる。 ・時計の正時の読み取りができる。	・イラストや具体物を用意する。 ・タブレット端末の時計アプリ等も使い、自分で操作して学習できるようにする。

※タブレット端末を活用する予定の内容については、★欄に○をつけています。

学 部		小学部		学 年		5年	
教科等名		国語・算数		グループ名		いちごグループ	
ねらい		・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。 ・ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方や計算の仕方を考え、表現する力を養う。 ・数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度や言葉がもつよさを感じる。					
担当教員		○上田 千鶴					
予定授業時数		148/255.8					
使用教科書		東京書籍 こくご☆☆☆ 教育出版 さんすう☆☆☆					
月	単元(題材)名	★	主な学習内容	ねらい(評価の観点)		指導の工夫	
4 5 6 7	<国語> ○つたわりやすいようにはなしてみよう 「でんわ」 ○わらべうたをたのしもう 「すきな うた」	○	・簡単な用件を聞く、話す。 ・簡単な取り次ぎや伝言 ・伝わりやすい話し方、丁寧な言葉での話し方 ・わらべ歌に親しむ。 ・濁音、半濁音、促音、拗音の読み	・電話の取次ぎや、伝言ができる。 ・「～です。」「～ます。」を使った丁寧な言葉遣いができる。 ・濁音、半濁音、促音、拗音を含む単語を正しく読むことができる。		・電話を使ったロールプレイを行う。 ・生活の中で目にするものを使用する。 ・ICT機器を活用し、児童が表出・表現しやすい手段を整える。	
	<算数> ○10までのこうせい 「かぞえましょう」 「いくつといくつ」 ○たしざん 「あわせていくつ」 「しきをつくりましょう」 「けいさんしましょう」	○	・数詞(2位数程度) ・9までの数の構成 ・10の数の構成 ・2つの数量の合わせた大きさ ・加法の意味理解 ・「+」「=」の理解 ・繰り上がりのない加法計算	・簡単な数詞を使って数を表すことができる。 ・10の数の構成ができる ・繰り上がりのない加法計算ができる。		・操作しやすい具体物を用意する。	
9 10 11 12	<国語> ○げきあそびをしよう 「三びきの こぶた」 ○かいものしょう 「かいもの」	○	・筋書きの理解 ・劇遊び(セリフや身振りの工夫) ・簡単な指示の聞き取り、伝言 ・メモの使用 ・挨拶、買い物の簡単な受け答え ・買い物の疑似体験	・劇の簡単な筋書きを理解して劇遊びができる。 ・メモを使用し、簡単な指示の聞き取り、伝言ができる。 ・お金を通した簡単なやり取りを通じて生活の中で使える力を付ける。		・簡単なお話を聞いたりロールプレイなどをしたりして気持ちを表す言葉を引き出す。 ・実際の買い物場面をイメージできるように場面設定をしたり教材を工夫したりする。	
	<算数> ○ひきざん 「のこりはいくつ」 「しきをつくりましょう」 「けいさんしましょう」 ○くらべてみよう 「ながい、みじかい」 「ながさをくらべましょう」	○	・「のこり」の使用、減少の理解 ・「－」「=」の理解 ・10までの減法計算 ・「長い」「短い」の理解 ・3量のながさの関係 ・任意単位の使用 ・長さの数値化	・10までの減法計算ができる。 ・3量のながさを比べることができる。 ・cmを使って長さを表すことができる。		・操作しやすい具体物を用意する。 ・比較しやすいよう、差異が分かりやすいイラストや具体物を用意する。	
1 2 3	<国語> ○ひらがなにしたいしもう 「ひらがなをよもう」 ○にほんのものがたりをよもう「おじいさんとねずみのはなし」	○	・長音、拗音、拗長音、促音の理解 ・長音、拗音、拗長音、促音などを含む身近な語句の表現理解 ・昔話の音読、黙読 ・物語のあらすじの理解 ・登場人物の気持ちの理解	・長音、拗音、拗長音、促音を含む単語を正しく読むことができる。 ・物語の簡単なあらすじや登場人物の気持ちの理解ができる。 ・説明文の理解し、内容に関する質問に答えることができる。		・身の回りの馴染みのある、簡単な動作を表す語から始め、徐々に発展させていく。 ・役割や文章、読む順番などをカードやモニターなどで示し、イメージがもてるようにする。	
	<算数> ○いろいろなかたち 「なかまあつめ」「しかくをつくってみましょう」「さんかくをつくってみましょう」 ○ときい 「学校のせいかつ」 「ながいはり、みじかいはり」「なんじですか」「ごぜん、ごご」	○	・「まる」「さんかく」「しかく」の理解、弁別 ・「しかく」の特徴 ・「ましかく」「ながしかく」の理解 ・「さんかく」の特徴 ・直角の意味 ・学校生活の時刻 ・○時の理解 ・長針と短針 ・「午前」「午後」の理解	・「ましかく」「ながしかく」の違いが分かる。 ・学校生活に関わる時刻の読み取りができる。 ・「午前」「午後」を使って時刻を表すことができる。		・イラストや具体物を用意する。 ・タブレット端末の時計アプリ等も使い、自分で操作して学習できるようにする。	

※タブレット端末を活用する予定の内容については、★欄に○をつけています。